

***** 応援団 *****

新時代の危機によせて

明治大学応援団本部

大正11年校歌「白雲なびく駿河台」を高らかに歌いながら発足したわが応援団も以来40有余年もの長きに亘って応援を続けて来た。応援の道は険しい。応援団が常に客体的立場に置かれているが故にも、主体である応援されるものの内部を察知理解しなければならない。応援の直接の対称は解しても目標を何処に置くべきかという、母校の全てに他ならない。おしなべてサークルとは何らかの目的なしに存在し得ないのである。わが応援団がかような土壌を持ったところで別段遺憾な事でも前近代的な事でもない。或は人は言うかも知れない。何故封建路線に固執するのかと。しかし言論の自由だ、個人の自由だと、自己の自由権利のみを叫び義務と責任を忘れた実質的内容のない人間集団の中であって、過酷なまでに自己を逆境に陥し込む人間がいたところで不思議ではない筈である。

この時期にあつて、学生生活にうつつを抜かす者こそ、マスプロ大学の表像として葬られてしまうのだ。団も明日の独立自治を想い、一挙手一投足その地歩を固めんとしている。団の存在する限り団員が何の意欲なくとも団は動いている。その動きに巻き込まれぬようにせねばならない。

応援団も従来の部内の関係が強すぎ近より難い一種独特のムードを作り上げた点を謙虚に反省しなければならぬ。然しながら団が直面する様々の疎外状況を克服する為にも、民主化の名称の下に行なわれる団の軟弱化は断固避けねばならぬと思う。学生服が、不調和な挨拶がそれ自体規律でなくて規律に到達する一手段なのだという事を諸君に叫びたい。

我々は時の権力者がときとして誤った道を進もうとする時その蒙を啓くために戦う反骨精神がいわゆる建精神の一要素ではあるがこれを間違えていたずらに非人道的・非道德的に反抗と破壊に青春の情熱を浪費する愚行は避けなければならない。文化国家として、人類世界に貢献する意気をもって再起した、新日本の使命の担い手とならねばならない。我々青年が今何をなさねばならないかは諸君一人々々の胸に問いたい。今一度熟慮し良識ある行動を望んでやまない、しかし忘れてはならないこと、それは日本を愛し、大学明治を愛し、人類を愛し、万物を愛する精神である。

紫紺の旗の下に

11月2日 PM 3:00 ~ 4:00 於・記念館

東京



学生割引

コンタクトレンズ

高田馬場駅前

TEL 209-4646(代)

渋谷診療所 東横線ホーム際・高速道路横 409-0005

池袋診療所 スカラ座さき薬局3階

971-8188